

## 令和4年度第2回守山市図書館協議会 議事録（要旨）

令和4年9月30日（金）

午前10時から11時30分まで  
守山市立図書館 多目的室

### 出席者

委員：北村委員、菅井委員、梅景委員、佐伯委員、田中委員、真弓委員、村瀬委員、  
山田委員、馬淵委員、中島委員、今関委員、岸本委員

事務局：向坂教育長、嶋本教育部長、川上教育部次長、松本館長、西村副館長、  
佐藤参事、天谷主査

### 1 開 会

#### <事務局>

本日は公私何かとご多用の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。  
定刻になりましたので、ただ今から、令和4年度第2回守山市図書館協議会を開会させていただきます。

### 2 会長挨拶

昨日のニュースで、10月3日の臨時国会における総理大臣の所信表明演説に関する報道がありました。就業のための「学び直し」について言及されるということです。

昨今、社会教育は教育委員会だけでなく、様々な場面で言及されています。新たに政府から社会教育について支援がなされることになり、市民は教えられるかたちで学ぶだけでなく、自ら学ぶ努力が求められる時代になってきています。

市民一人ひとりが自ら学ぶことは、地域の図書館がなければ非常に困難です。人々が教えられたことをベースに自ら学び、自分の力にしていくためには、学習の場を提供する図書館の役割がますます重要になってきます。

守山市も北部地域に図書館ができることで、学習環境がより充実していくことを期待します。

本日は、皆様から活発なご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 3 教育長挨拶

本日は、大変ご多用の中、守山市図書館協議会にご出席賜り、誠にありがとうございます。また、平素より図書館運営および読書活動の推進につきまして、多大なご支援、ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、一時落ち着いておりました新型コロナウイルス感染症も夏休み前から急激に増加してまいりました。そのような中、図書館の状況といたしましては、来館者数、貸出人数および新規登録者数と、図書館に来館された方は前年度と同程度で、安定した運営ができております。

新しい取組についてご紹介いたします。ひとつは、図書館サポート隊の皆さんが9月下旬から木もれびギャラリーにおいて活動紹介を行い、参加者を募集されています。次に、夏休みに各自のタブレットで閲覧できるよう、学年ごとにおすすめ本の配信を行いました。そして、民生委員・児童委員さんにご協力いただき、高齢者へのサービスを強化しているところです。また、昨年度に引き続き、読書日本一に向けた本との出会いや読書のきっかけづくりとして、文学・歴史講座、児童図書研究講座、ビブリオトーク等を開催し、多くの方にご参加いただき、好評を得ることができました。

一方、北部図書機能およびコミュニティ機能の整備につきましては、おかげさまで7月29日に落札業者が決定し、8月10日の契約議決を経て、現在は工事に取りかかっております。

本日は、北部図書機能およびコミュニティ機能の管理運営について、また現図書館の運営状況や取組状況を中心にご報告、ご協議させていただきます。

今ほど岸本会長からもございましたように、どのような学びを進めていくのかを考えることは、図書館のあり様に深く関わることです。皆様からの活発なご意見を賜りまして、よりよい図書館運営に取り組んでまいります。

#### <事務局>

向坂教育長は公務の都合により、ここで退席をいたします。ご了承のほどお願い申し上げます。

## 4 議事

#### <事務局>

それでは議事に入らせていただきたいと思います。これよりは、守山市図書館協議会規則第2条第3項の規定により、会長に進行をお願いしたいと存じます。

岸本会長よろしくお願ひいたします。

#### (1) 報告事項

#### <岸本会長>

それでは、次第に従いまして、本日の協議会の議事を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

報告事項1点目、「北部図書機能およびコミュニティ機能の管理運営について」を事務

局より説明をお願いします。

<事務局>

資料に沿って説明

ア 北部図書機能およびコミュニティ機能の管理運営について【資料1】

<岸本会長>

それでは、ただいまの説明に対しまして、ご意見・ご質問等がございましたら、挙手のうえ、発言をお願いします。

特にございませんか。

それでは、次に2点目の「令和4年度図書館の運営状況について」、3点目「令和4年度活動計画の主な取組について」を続けて、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

資料に沿って説明

イ 令和4年度図書館の運営状況について 【資料2】

ウ 令和4年度活動計画の主な取組について 【資料3】

<岸本会長>

それでは、ただいまの説明に対しまして、ご意見・ご質問等がございましたら、挙手のうえ、発言をお願いします。

<馬淵委員>

図書館サポート隊について質問します。個人で参加している方はいらっしゃるのでしょうか。

また、学校司書による各小学校でのおはなし会はどれぐらいの頻度で実施されているのでしょうか。

<事務局>

図書館サポート隊につきましては、団体とは別に個人で登録してくださっている方がいらっしゃいます。例えばトイレに生け花を飾ってくださっている方がおられますが、その取組みは個人で活動をしていただいている事例です。

学校司書による各小学校でのおはなし会の実施については、日時を決めて実施しているわけではなく、児童が図書室に来るタイミングを見計らって、都度実施している状況です。ただし、河西小学校については、資料3の3頁にございますように担当の先生と相談をして生徒に呼び掛けを行い開催したものです。

<岸本会長>

図書館サポート隊について質問が出ましたので、6月19日の図書館サポート隊交流会に参加された委員からご報告をお願いします。

<佐伯副会長>

図書館サポート隊交流会は、昨年12月に開催されたワークショップ『新図書館開館3周年記念 図書館の職員と話をしよう』の中での「横のつながりを持つ機会がほしい。」という意見をもとに開催されたものです。

参加者の中には久しぶりに出会う方もあり、旧交を温めることができました。また、様々な年齢層の方と意見を交わすことができました。交流会での意見から早速、木もれびギャラリーでの活動内容の紹介が実現できたことを非常に嬉しく思います。

皆様が集まって、こうしたいと考えたことがすぐに次の活動に結びつき、図書館が実現してくださることに感謝しています。

<今関委員>

図書館サポート隊では、様々な活動が行われていることがわかりました。私は個人的に、現在の図書館サポート隊とは別に図書館友の会を組織的にできないかと考えていた時期がありましたので、図書館サポート隊に関してしっくりきていない部分もあるのですが、これから上手く進んでいくといいなと思っています。そうした中からかつて開催していた小学校3年生を対象とした「親子読書会」のような活動をサポートしてあげることができればいいと考えています。

ただ、現状では、サポートよりも自分たちの活動を充実させる傾向が強いグループもあるように感じています。共に学びながら市民の図書館利用をサポートできる活動が生まれ出されていけばいいと思います。

新図書館が開館して、まだ4年なのでこれから図書館サポート隊がさらに育っていくことを期待します。

<佐伯副会長>

まず交流会に参加して、図書館サポート隊の全体像を知ることができたのは収穫でした。多くの方が図書館サポート隊に関わっておられることがわかりました。これから図書館サポート隊がどのように広がっていくのか、不安にお思いの方もおられるかもしれませんが、良い方向に進んでいくことを期待しながら関わっていきたいと思っています。

<岸本会長>

図書館サポート隊と図書館との位置づけについて、もっと理解を広めていかないといけないと思います。基本的には市民の活動として図書館サポート隊があるのです。どう

したら市民の活動が自主的に進んでいくようになるのかを考えていくことが原則です。それを図書館がしっかり押さえておかないと図書館運営をサポートする『隊』になってしまいます。そうではなく、図書館を利用する人たちを図書館とは違った立場からサポートする自立的な市民の活動として図書館サポート隊が成り立っていく必要があります。今関委員のご意見はそのことについての問題提起だと思います。

#### <真弓委員>

今月から行われている図書館サポート隊の紹介展示の当番で出会った方のお話ですが、ずっと図書館のために何かしたいと思っておられたそうです。ただ、現在活動しているグループに新しく入っていくことに躊躇されているようでした。不安な気持ちがあつてのことだと思います。それでも勇気を持って、参加したいという気持ちで紹介展示を見にこられたようでした。

「本おなおし隊」や「としょかんかざり隊！」に興味があるとのことなので、10月に予定されている「としょかんかざり隊！」に参加されるようお誘いしました。

当日は家を出るのにも勇気がいると思います。だって来なくてもいいことですから、その人の生活が困るわけではないので。同じように参加したい気持ちを持っていてもなかなか行動に移せない方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。

折り紙や楽器の演奏など、趣味としての活動を通じてサポートする方と、図書館の活動を直接サポートする「本おなおし隊」や「としょかんかざり隊！」に参加する方とでは活動の種類も考えも違います。そうした方々が、一緒になってどう盛り上げていくことができるのか、議論が必要だと感じています。

## (2) 協議事項

#### <岸本会長>

次に、協議事項へ移ります。「令和4年度今後の図書館の活動について」を事務局より説明をお願いします。

#### <事務局>

資料に沿って説明

令和4年度今後の図書館の活動について 【資料4】

#### <岸本会長>

それでは、ただいまの説明に対しまして、ご意見・ご質問等がございましたら、挙手のうえ、発言をお願いします。

特にございませつか。時間が少しありますので、フリートークという形でお一人ずつ

お話しいただければと思います。

< 笹井委員 >

中学校としましては、図書館に職場体験で生徒を受け入れていただき感謝しています。参加した生徒は、本を借りているだけではわからない図書館の中の仕事を知ることができ、学校における委員会活動等に活かすことができます。大変貴重な機会だと思っています。

私の勤務校である明富中学校は、図書館から最も遠い位置にあるので、北部図書館に対する期待は非常に高いと思います。夏休みにはエコパークの図書コーナーで学習をする生徒もいます。夏休み中、学校図書館は閉まっていますので、北部図書館は気軽に学習できる場として利用されるのではないかと思います。他の年齢層の利用者もおられますので、生徒達の利用時間等との兼ね合いについては、気を付けたいところです。

以前、小津小学校と吉身小学校に勤務しておりました時は、それぞれ地域の読み聞かせグループさんが月に数回、朝の時間に教室で読み聞かせをしてくださっていました。また、同じグループさんが体育館で大きなおはなし会をしてくださることもありました。地域の方々も、児童が本に親しむ時間を提供してくださっています。学校、図書館、地域が連携することで、読書日本一のまちづくりに向かって進んでいけるのだと思います。

< 岸本会長 >

職場体験の各学校の参加人数は決まっているのですか。

< 事務局 >

各校5名までとさせていただいておりますが、現状は4名ずつの参加となっております。

< 北村委員 >

幼稚園の現場におきましても、絵本の読み聞かせは愛着形成の面で大切だと考えて取り入れているところです。守山幼稚園では、絵本の貸出を行い、親子読書の機会としております。基本的には親子で読んでくださっているのですが、最近は気になる事例もあります。保護者の方が忙しく、絵本を借りて帰っても子どもさんが一人で読んでいるご家庭があるのです。幼児期の後半になりますと文字への関心が出てきて、自分で読むという楽しみももちろんあるのですが、幼稚園としましては語られる言葉を通して本に親しむことが大切だと考えています。幼児期に想像力を広げる経験をすることが、小学校以降の学習力にもつながってきます。保護者の方にも親子での読み聞かせの重要性について、啓発をしていきたいと考えています。

子どもたちにとって、多くの本の中から自分の読みたい本、季節に合った本を選べる

環境が身近にあるということは、読書の楽しみを学んでいく上で非常に大切なことです。北部地域に本に親しめる読書環境が整備されることは、意義のあることだと思います。

#### <梅景委員>

私は、守山北高校で学校司書をしています。当校は地域に根ざした高校をめざしています。そうした中で生徒たちに何が出来るかを考えますと、いかに利用しやすい学校図書館をつくっていくかということだと思います。

先日、在学中によく学校図書館を利用していた卒業生が会いに来てくれました。市立図書館も利用しているという話を聞いていたのですが、琵琶湖大橋の近くに住んでいるというのです。自宅から市立図書館まで自転車で通っていたそうです。また、自宅と市立図書館の中間地点にある守山北高校の学校図書館は非常に利用しやすかったと言っていました。北部図書館ができるということはその生徒にとって、非常に大きなことだろうと思います。守山北高校は北部地域に住んでいる生徒も多いので、市立図書館が北部地域の読書環境を充実する役割を担って下さることはありがたいことです。高校の図書館としましても学校の立場から支援を続けていかなければならないと思います。

#### <馬淵委員>

北部図書館ができるのを楽しみにしています。ボランティアとして、私たちに何が出来るかを考えています。最近読んだ本の中に、一対一での読み聞かせについて書かれているものがありました。読み手が一人、聞き手が一人で、広い場所で何組もペアになって読み聞かせを行うのです。私たちは速野小学校で最初に読み聞かせのボランティアをした時、教室ではなく体育館や校庭で読み聞かせをしていました。この本の事例と似ていると思いました。北部図書館ができた時に、従来のおはなし会も必要ですが、一対一で読み聞かせをするのも楽しいのではないかと思います。図書館の方と一緒に新たな取組を考えていければと思っています。

図書館サポート隊の名称については、図書館をサポートするのではなく図書館を利用する人たちをサポートするという意味があるのだと気づきました。読み聞かせボランティアの役割は、図書館をサポートしながら、最終的に子どもたちの図書館利用をサポートすることになるのだと思います。きっかけは図書館をサポートするという形であっても、そこからさまざまな地域での活動に広がっていけばいいのではないかと思います。

そして活動に関しては、名称の付け方が非常に重要だと思いました。美崎自治会でも「子ども図書室」という名称で文庫活動をしていたのですが、「子ども」という言葉を入れることで大人の方が来にくくなるのではないかという意見が出ました。広く利用していただけるよう「子ども」をとり「美崎図書室」という名称に変更したのです。小さい子どもさんから高齢者の方まで気軽に寄っていただけるような文庫にしたいと思っています。

<岸本会長>

私の地域でも老人会の会員が小学生に読み聞かせをする活動をしています。地域の方々から意見が出てくる形で図書館の事業が展開していくことが一番良い形だと思います。地域の様々なご意見やお力を図書館に向けていただけるように紹介をしていただければと思います。

<中島委員>

私も地域の子ども文庫活動を行っており、最近はやはり小学生の利用が少ないと感じています。

自分一人で来る子どもはあまりおらず、小さい子どもがお母さんと一緒に来ているという状況です。受け身ではなく積極的な働きかけが必要だと思いました。馬淵委員が仰った高齢者の方も参加できる文庫は素敵だと思います。

私はサロン活動も開催しているのですが、参加する高齢者の方々からは本も読みたいが老眼で疲れるというお声があります。そうした方々に読みやすい本を届けられるようにできればと思います。高齢者の方も参加できるような地域文庫になって、図書館に協力することができれば嬉しいです。北部図書館にはとても期待しています。

<岸本会長>

北部図書館では、子どもへのサービスと同時に高齢者向けのサービスも重要になってくると思います。最近図書館でも老人会に職員が出向いておはなし会をするといったサービスを実施しているところも増えてきています。そうしたサービスの必要性についても検討していただければと思います。

<山田委員>

図書館サポート隊についてですが、会長は先ほど「図書館運営をサポートするのではない」と言われました。先日の図書館サポート隊交流会でも様々な意見が出ました。図書館サポート隊の中でも様々な活動形態がありますから、図書館運営をサポートすることによって間接的に市民活動をサポートする、という活動があってもいいのではないのでしょうか。様々な分野の人がもっと集まれば、非常に有意義なサポートができると思います。

例えば、昨年度に集会室で絵本原画展が開催されましたが、スペースも照明の数も限られていて、原画の配置が非常に難しかったのです。そうした展示のノウハウを持っている人が図書館サポート隊の中におられれば、より素晴らしい展示になったと思います。それは図書館運営をサポートすることではありますが、その活動によって市民が展示を楽しむことをサポートしていることになるのだと思います。



そのような内容に関しても図書館サポート隊を募集してもよいのではないのでしょうか。

<岸本会長>

図書館サポート隊の活動についても、図書館側が要請するのではなく、山田委員が仰るように市民の方々が利用する中で気づかれたことを提案し、それを取り入れていけるといいと思います。

<村瀬委員>

北部図書館の来年、夏の開館を楽しみにしています。

読書日本一のまちづくりの取組としてICTを活用して本の紹介をされたという報告がありました。それも大事ですが、百聞は一見に如かずと申しますように、子どもたちにぜひこの立派な図書館を体験してもらいたいと思います。以前はされていたと聞いておりますが、小学校による見学を学習の一環として再開していただきたいと思います。守山市の子どもたちが早く図書館の実物に触れられるといいと思います。家族で図書館を利用している子どもはわかっていると思いますが、そうでない子どもたちも一度見学をすれば図書館に行ってみたい、本を借りてみたいと思うようになるのではないのでしょうか。

おはなしボランティア養成講座について質問です。これを受講すると必ず図書館で読み聞かせのボランティアとして活動しないといけないものなのではないのでしょうか。講座の内容には興味があるのですが、既に地域でボランティアをしているので、これ以上活動を広げることは難しいのです。地域の方々と一緒に講座を受けることで、地域での活動がもより充実したものになるのではないかと考えているのですが。

<事務局>

おはなしボランティア養成講座につきましては、5回連続の講座を受講すると図書館で読み聞かせボランティアとして登録していただけるというものです。ご登録いただいた後は、それぞれの方の事情に沿って無理のない範囲で活動をしていただいているところです。講座を受けられた方の中にも、現時点では読み聞かせをしておられない方もいらっしゃいます。図書館での読み聞かせボランティアを強制するものではありません。読み聞かせについて学びたいという方はぜひご参加いただければと思います。

<岸本会長>

図書館での読み聞かせボランティアの要件として、おはなしボランティア養成講座の受講があるわけですね。地域の方々にも参加していただける広報の工夫があると、より良いかもしれません。

#### <真弓委員>

私が所属している滋賀県子ども文庫連絡会では毎年活動計画を立てて取り組んでいるのですが、年々活動が減少しています。そうした中ですが、7月には久々に赤ちゃん絵本の会を開催することができました。そうしますと、お父さんとお母さんと赤ちゃんの3人で多くの方がご参加くださいました。会の途中で赤ちゃんが泣き出すとお父さんが外へ連れ出し、お母さんは話を聞き続けていました。赤ちゃん絵本の会は20年前にも開催しましたが、以前はお母さんと赤ちゃんの2人での参加ばかりでした。せっかく参加されても赤ちゃんが泣き出すと話を聞くことができなくなって途中で帰ってしまわれるというお母さんもおられたのです。時代は変わったのだなと嬉しく思いました。たくさんの絵本を紹介しましたので、図書館の後押しも久しぶりにできたと感じました。

#### <田中委員>

商工会議所から来ております。会長のお話の中にあつたことと関連するのですが、日本商工会議所が毎月発行している広報誌に「職場内に学ぶ気風を育ててほしい」ということが書かれていました。職員を育てるという意味で、様々な情報や本に触れる機会を職場内につくってほしいという内容でした（参考『月刊石垣 2022年8月号』「下町育ちの再建王の経営指南 社内に「学ぶ」気風を育む」小山政彦）。

また、一昨日の京都新聞に「図書館への介入 認め難い文科省の要請」という記事が掲載されました（京都新聞9月28日朝刊社説）。文部科学省から全国の教育委員会に対して北朝鮮の拉致問題に関する図書館の蔵書を充実させてほしいという要請が出たということです。拉致問題について広く周知することは大切だと思いますが、資料の収集に関しては図書館が自ら判断すべきことであって、国が要請を行うのは地方への介入が過ぎるのではないか、という問題提起がされていました。

今年の3月には岐阜県御嵩町で、町長が図書館に対して町政に反対する本を貸出禁止にするよう指示したという報道が出ておりました（『テロと産廃 御嵩町騒動の顛末とその波紋』杉本裕明／著、花伝社、令和3年刊）。図書館は様々な意見に対して中立的な立場で資料を収集し提供する機関ですので、その独立性が重要だと思います。

#### <岸本会長>

今回の件について、文科省は全国の都道府県教育委員会に要請を出しています。政府からの依頼が文科省にあつてそのまま都道府県に出したということのようです。

国が図書館に特定主題の本を入れてほしいと要請することは、裏を返せば特定主題の本を図書館に入れてはいけないという要請にもつながってしまいます。これは図書館の歴史の中で繰り返されてきたことです。日本においても、かつては「図書館には良書を置きなさい」と言われていました。「良書」というのは国の政策を支持する本という意味

です。そして「悪書」というのは国の政策を支持しないことが書かれた本という意味でした。過去には文部省から「図書館にとって一番大切なことは良書を置き、悪書を置かないことなのだ」という通知が出ていたのです。

図書館が自主的に判断するという意味は、図書館が勝手に決めるということではなくて、市民の方々の要望をしっかりと踏まえて把握した上で最終的に図書館長が責任を持って判断するということなのです。それが図書館の自由ということですし、図書館と図書館長が判断に責任を負うということは、市民の声をしっかりと聞きして判断したのだという自信がなければできないことです。その判断に対して外部から介入があるということは許しがたいことだと考えます。そうした介入は図書館にとって決して良い方向には働きません。

#### <今関委員>

この夏、児童文学作家の村中李衣さんの講演を聞く機会がありました。講演の内容としましては、罪を犯してしまった女性の受刑者の方々と一緒に本を読むという活動をなさったというものでした。絵本を持って行って、その中から受刑者の方が本を1冊選んで順番に読むという活動です。本は深く人の内面に入り込むことができ、そこに表現されていることを通して読み手の考えや気持ちを伝える力があるということを感じました。最初に会長が言われた「学ぶ」ということは1冊の本を選び取ることを通して可能なのではないかと思いました。(『女性受刑者とわが子をつなぐ絵本の読み合い』中島学・村中李衣／共著、かもがわ出版、令和3年刊)

また、高島市での講演会に出向く機会があり、その際に地域の活動を見せていただきました。そのグループでは読み聞かせではなく、ブックトークに力を入れていました。地域のグループがブックトークをされていることに興味がわきました。ふだん児童サービスに関しては、本を全部読む、読み聞かせの話題が多いのです。ブックトークは多くの本を知っていないとできません。ですので、すごく勉強されているグループなのだと思います。どうすれば子どもに興味を持ってもらい、本を渡していくことができるかをよく考えて、本の渡し手である地域ボランティアの皆様が自分を鍛えておられるのだと思います。

最近、子ども食堂を見学していますと、子ども食堂でも絵本が置かれていました。滋賀レイカディア大学の卒業生の方々が中心になって活動している「えにしの会」から、一箱の本が届くのです。私が参加した子ども食堂では、近所の方が自宅の本を持ってきておられました。図書館のリユース本を利用したらいいのではないかと思いました。今まで本を読む活動をしていなかったところに活動が広がりだしています。ただ、子ども食堂に参加している子どもたちは誰も本を見ておらず、おもちゃで遊んでいました。なかなか本に手を伸ばしてくれていない状況でした。

それから、おはなし会参加者の低年齢化の問題はどこでもあると思います。私は紙芝

居を読む活動をしているのですが、その会でも参加者に小学生の姿はありません。それでも30人程度の参加者があるのは有り難いことです。本当は小学生に見てもらいたい内容もあるのですが、参加者の年齢はどんどん小さくなっています。おそらく地域でも図書館でも同様の状況があるのではないのでしょうか。そういう意味では、かつて図書館で実施していた小学3年生対象の「親子読書会」のような活動をもう一度検討していただきたいと思います。

いろいろ意見を申しましたが、私はこの図書館に満足しています。今、下之郷まつりについて企画をしているのですが、今年は「染め」をテーマにするつもりです。そこで図書館に関連する本が置いていないか問い合わせたところ、『アンナの赤いオーバー』（ハリエット・ジューフェルト／著、評論社、平成2年刊）を紹介していただきました。プログラムについて説明し、「この企画にふさわしい絵本を教えてください」と言うと色々な棚から本を用意してくれるのです。11月に開催するので、『アンナの赤いオーバー』はちょうど季節がぴったりで感動しました。図書館司書の皆様は本のことをよく知っておられるし、職員同士で協力して本を探し出してくれるのです。職員がお互いに信頼しあっている様子がわかります。司書の能力がよく活かされている図書館だと感じています。

#### <佐伯副会長>

私も図書館に大満足していますので、特に具体的な要望はありません。守山市立図書館に所蔵がない本についてもすぐに調べて他の図書館から取り寄せてくれるので非常に助かっています。大型絵本も増えたり、古かった絵本も新しいものに交換できているし、図書館に来て本を選ぶのが楽しいです。

今回参加して、中島委員が仰っていた高齢者へのサービスや、馬淵委員が仰っていた一対一のサービスなどのような、新しい手法があるのだと気づかされました。

地域では高齢者が月に1回集まって、おしゃべりをする会を開催しています。その会に絵本を持って行ってみようと思いました。また、毎年2月に岡自治会では子どもを集めておはなし会をしているのですが、次回は一対一の読み聞かせをしてみようと思いました。

他の委員の方々から、地域での読書活動について様々なヒントをいただきました。ありがとうございました。

## 5 その他

#### <岸本会長>

続きまして、その他の項について、事務局から何かありますか。

#### <事務局>

次回、今年度第3回目の図書館協議会の開催についてでございます。現在のところ、来年の2月か3月頃を予定しておりまして、日程が決定次第、委員の皆様には、ご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

## 6 閉会

### <事務局>

岸本会長、委員の皆様、本当にありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回守山市図書館協議会を閉会いたします。

お帰りの際は、お気をつけてお帰りください。本日は、誠にありがとうございました。

以上